

[B年]復活節第7主日(2026年5月17日)**【旧約聖書日課】イザヤ書 45章1～7節**

1. 主が油を注がれた人キュロスについて
主はこう言われる。
わたしは彼の右の手を固く取り
国々を彼に従わせ、王たちの武装を解かせる。
扉は彼の前に開かれ
どの城門も閉ざされることはない。
2. わたしはあなたの前を歩き、山々を平らにし
青銅の扉を破り、鉄のかんぬきを折り
3. 暗闇に置かれた宝、隠された富をあなたに与える。
あなたは知るようになる。
わたしは主、あなたの名を呼ぶ者
イスラエルの神である、と。
4. わたしの僕ヤコブのために
わたしの選んだイスラエルのために
わたしはあなたの名を呼び、称号を与えたが
あなたは知らなかった。
5. わたしが主、ほかにはいない。
わたしをおいて神はない。
わたしはあなたに力を与えたが
あなたは知らなかった。
6. 日の昇るところから日の沈むところまで
人々は知るようになる。
わたしのほかは、むなしなものだ、と。
わたしが主、ほかにはいない。
7. 光を造り、闇を創造し
平和をもたらし、災いを創造する者。
わたしが主、これらのことをするものである。

【使徒書日課】エフェソの信徒への手紙 1章15～23節

15 こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、16祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。17どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、18心の目を開いてくださるよう。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるよう。19また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるよう。20神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、21すべての支配、権威、勢力、主権の上に

置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも喝えられたるあらゆる名の上に置かれました。22神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。23教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 17章1～13節

1 イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。
「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。2あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができます。3永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。4わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。5父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。
6世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。7わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。8なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。9彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。10わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。11わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。12わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。13しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

イザヤ書 45章1～7節

1 主は油を注がれた人キュロスについてこう言われる。

私は彼の右手を取り、
彼の前に諸国民を従わせ、
王たちを丸腰にする。
彼の前に扉は開かれ、
どの門も閉ざされることはない。

2 私はあなたの前を行き、山々を平らにし、
青銅の扉を破り、鉄のかんぬきを砕く。

3 私は暗闇に置かれた宝と隠された財宝を
あなたに与える。

それは、私が主であり、
あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であること
をあなたが知るためである。

4 私の僕ヤコブ、私が選んだイスラエルのために
私が呼んだ名を

あなたに名乗らせようとしたが
あなたは私であると分からなかった。

5 私は主、ほかにはいない。

私のほかに神はいない。

私はあなたに力を授けたが
あなたは私であるとわからなかった。

6 それは、日の出る所からも、日の沈む所からも
人々が知るためである。

私のほかは無に等しい。

私は主、ほかにはいない。

7 光を造り、闇を創造し

平和を造り、災いを創造する者。

私は主、これらすべてを造る者である。

エフェソの信徒への手紙 1章15～23節

15 こういうわけで、私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖なる者たちに対する愛とを聞いて、16 祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。17 私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、あなたがたに知恵と啓示の霊を与えてくださいますように。そして、あなたがたが神を深く知ることができ、18 心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか、19 また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができますように。20 神は、この力ある業をキリストの内に働かせ、キリストを死者の中から復活させ、天上において

ご自分の右の座に着かせ、21 この世だけでなく来るべき世にある、すべての支配、権威、権力、権勢、また名を持つすべてのものの上に置かれました。22 また、すべてのものをキリストの足元に従わせ、すべてのものの上に立つ頭としてキリストを教会に与えられました。23 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方が満ちておられるところです。

ヨハネによる福音書 17章1～13節

1 イエスはこれらのことを話してから、天を見上げて言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子に栄光を現わしてください。2 あなたは、すべての人(直訳→肉)を支配する権能をお与えになったからです。こうして、子が、あなたから賜ったすべての者に、永遠の命を与えることができるのです。3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。4 私は、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。5 父よ、世が造られる前に、私が御もとで持っていた栄光で、今、御前に私を輝かせてください。

6 世から選んで私に与えてくださった人々に、私は御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたは私に与えてくださいました。彼らはあなたの言葉を守っています。7 私に与えてくださったものはみな、あなたから出たものであることを、今、彼らは知っています。8 なぜなら、私はあなたからいただいた言葉を彼らに与え、彼らはそれを受け入れて、私が御もとから出て来たことを本当に知り、あなたが私をお遣わしになったことを信じたからです。9 彼らのためにお願いします。世のためではなく、私に与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものであるからです。10 私のものはすべてあなたのもので、あなたのもは私のものです。私は彼らによって栄光を受けました。11 私は、もはや世にはいません。彼らは世にいますが、私は御もとに参ります。聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって彼らを守ってください。私たちのように、彼らも一つとなるためです。12 私は彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。私が保護したので、滅びの子のほかは、誰も滅びませんでした。聖書が実現するためです。13 しかし今、私は御もとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、私の喜びが彼らの内に満ち溢れるようになるためです。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・5月17日「復活節第7主日」の日課主題は「キリストの昇天」。伝統的な教会暦では、「復活日(イースター)」から40日目を「昇天日」として記念してきたが、近年はこれを主日に記念するために「復活節」最後の主日を「昇天の主日」とする場合がある。

・旧約日課は、「イザヤ書」から、バビロン捕囚を解いたペルシア王キュロスを「油注がれた人」として示す箇所。使徒書日課は、「エフェソの信徒への手紙」から、キリストを「神の右の座」に着いた方として告白し、教会を「キリストの体」として示す箇所。福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、主イエスの「大祭司の祈り」と呼ばれる箇所の前半部。

旧約日課(イザヤ 45章より)

・「イザヤ書」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)の区分で「後の預言者」の第一に置かれた預言文書。標題(1:1)によれば、本書は、前8世紀後半に南王国ユダの四代の王(ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)に仕えた宮廷預言者「イザヤ」の預言句集と活動録を編集したものである。しかし、この標題に即した内容と同定できるのは39章までであり、通説では、40章以下は、前6世紀後半、バビロン捕囚が解かれてユダヤ帰還事業が始められていった時代に帰還事業に携わった者たちに仕えた祭司・預言者集団に帰される預言句集と考えられている。この祭司・預言者集団は、歴史的預言者「イザヤ」を模範とする意図から、40章以下を補遺した「イザヤ書」を編纂したものと推認される。この40章以下を、一般に「第二イザヤ」と呼びならわしている。

・日課箇所は、「第二イザヤ」の中でほとんど唯一、歴史的背景が明示される一連の箇所の一部。「キュロス」は、前559年頃にペルシアの王に即位し、メディア、バビロニアをはじめ古代オリエント世界を一代で支配下に置いた王の名。前539年にバビロンを無血征服すると、翌538年には捕囚の解放を実行し、捕囚民の帰還と故郷再建事業を許可したとされる。旧ユダ王国の末裔らのユダヤ帰還事業およびエルサレム再建事業は、このペルシア王キュロスの許可と総督任命によって実施されたことであるが、「イザヤ書」は、これを神意として示すためにキュロスを「主が油注がれた人(メシア)」として語っている。「キュロス」の名は、日課箇所のほかに、直前44:28にも表れており、そこでは「わたし(主)の牧者、わたし(主)の望みを成就させる者」とも描かれている。王を「牧者」に譬える例は、古代メソポタミアで広く知られるが、「正しい牧者」を神がイスラエルのために遣わされるという思想は、「エゼキエル書」34章などにも見られる。

・かつてユダの王家らを捕囚としたバビロニア王ネブカドネツアルは、バビロン市を当代随一の大都市に再建したことで知られ、征服した国々から多くの人材

や富をバビロンに集めていた。2~3節は、これらの富が帰還民に返還されるという希望を示していると読める。エズラ記によれば、バビロン捕囚によってエルサレムからバビロンに移されていた神殿財宝・祭具類は、帰還事業に際してユダヤ人に返還されたとあるが(エズラ1:7~11)、実態については不明。

・この時代、かつてのアッシリアやバビロニア以上に広範な版図に及ぶ世界帝国を築いたペルシア・キュロス王の出現を「主が油注がれた人」とすることで、「第二イザヤ」は、このペルシアがもたらした新秩序の背後に働く「主なる神」を、単に民族神・国家神としてではなく、全世界を統べる絶対神として明確に認識するように促していると考えられる。この時代の神観の変化は、メソポタミア文明の宗教観とは異なるペルシアの国家宗教(原始ゾロアスター教?)の宗教観が影響によるところが大きいとも考えられる。「第二イザヤ」の編者の系譜はユダヤ宗教共同体における「正典」編纂にも深く関わったと考えられるが、彼らの政治思想には、世界大の国家宗教と一体化することで自らの宗教的政治的地位を確かなものにするという意図があったのかもしれない。

使徒書日課(エフェソ1章より)

・「エフェソの信徒への手紙」は、「パウロ書簡集」の第5に置かれた書簡文書。標題(1:1~2)によれば、使徒パウロが二年ほど活動拠点としていたエフェソの教会共同体に宛てて、パウロ単名で記した書簡。末尾の結語部分(6:21以下)には、パウロとエフェソ教会共同体との関係性を示す具体的な記述がわずかに見られるが、他にエフェソ教会特有の事情を明確に示す記述は見いだされない。エフェソは、アジア州の中心都市であり、「アジア州にある七つの教会」(黙1:4-5)と呼ばれるような地域教会共同体を形成する中の中心地であったと推認される。「黙示録」が示す「七つの教会」には含まれないが、同じアジア州に存した「コロサイ」の教会に宛てた「パウロ書簡」もあり、本書簡は、当初からこの地域の諸教会全体に向けられた「教書」として著されたのかもしれない。

・日課箇所を含む1章は、書簡の定式に沿った冒頭挨拶部分で、1~2節の頭語(差出人と宛先人、祝福)に続いて、相互の安否を確かめて告げられる感謝や祈りが記されている。パウロ書簡の場合、この感謝と祈りの中に、自分たちの共通の信仰理解に基づく信仰告白的な内容が含まれてくる。日課箇所では、15節で感謝の言葉、17~19節で祈りの言葉、20~23節で祈りの言葉から導き出される神とキリストについての信仰告白的な表明が記されている。

・20~23節で表明されるのは、絶対的な神の力を前提に、神がご自身の名代としてキリストに地上を支配させ、殊にその地上支配の具体的なしるしとして「キリストの体」とイメージされる「教会」をお建てになられた、という教会論である。「キリストの体」教会論は、Iコリ12章では異なる視点で展開されている。

福音書日課(ヨハネ 17 章より)

・日課箇所は、主イエスの「大祭司の祈り」と呼ばれる章句の前半で、「最後の晩」に弟子たちと食事を共にされた後、「キドロン谷」(ヨハ 18:1)に行かれるまでの間になされた「祈り」として伝えられている。「キドロン谷」は、エルサレムの「神殿の丘」と「オリーブ山」を隔てる谷。「共観福音書」で主イエスが最後の晩餐の後にオリーブ山に向かわれて「ゲッセマネの園」でなされたと伝えられる祈りに代わる祈りとして、ヨハネ福音書が採用したと考えられる。

・日課箇所冒頭は、主イエスが「祈られた」とは書かれていないが、「天を仰いで言われた」(直訳は、「天に向けてその目を上げて、言われた」という表現で祈られたことを示している。新約中で「祈る」ことは通常「プロセウコマイ」で表現されるが(85 例)、「ヨハネ福音書」にはこの用語を用いた用例がない。

・「主イエスの大祭司の祈り」(17 章)は、「祈り」の形式で本福音書の救済理解を端的に示す内容となっている。すなわち、①御父である神と御父のもとから遣わされた御子イエスがあらゆる点で「一つ」であること、②この「父と子の一致」を出発点にして、御父から遣わされた御子のために「弟子たち」が選ばれ、御子は「弟子たち」と「一つ」にされるようにされ、そうすることによって「弟子たち」も「父と子の一致」のうちに迎え入れられて「一つ」にされること、さらに、③この「弟子たち」を通して「他の者たち」もまた「一致」のうちに迎え入れられて「一つ」にされること、が明瞭な段階を踏んで展開されている。

・1 節「栄光を現す」、4 節「栄光を現し」、5 節「栄光を与え」、10 節「栄光を受け」は、いずれもギリシア語「ドクサゾー」の訳。日課箇所中では、5 節に名詞形「栄光(ドクサ)」も用いられている。「ドクサゾー/ドクサ」は、新約中で広く用いられている用語だが、「ヨハネ福音書」では特に 12 章以降で多用され、主イエスの「受難(十字架死)」のときを「栄光」として示そうとしている。

来週の誕生日 (5 月 17 日～23 日)**主日礼拝の讃美歌から**

・21-19「み栄え告げる歌は」は、20 世紀後半に起こった英語讃美歌創作運動の中心人物の一人、フレッド・P・グリーン(1891-1971)の作詞。グリーンは英国メソジスト教会の牧師。曲は、19 世紀後半～20 世紀にかけて英国で教会音楽家として活躍した C・V・スタンフォードの作曲。この曲は、元来、「この世にあかし立てて」(379 番)のために作曲されたが、転用された。

・21-337「たたえよ、この日」は、18 世紀メソジスト派の始祖の一人 C.ウェスレーの作詞。原歌詞は 10 節までであるが、英語讃美歌集では適宜組み合わせられた節によって編纂されてきた。曲は、盲目のアマチュア音楽家 R.ウィリアムズの作曲とされるが、19 世

紀の讃美歌集で作者不詳のまま「ウェールズの讃美歌曲」と組み合わせられて以来、用いられてきた。

・21-390「主は教会の基となり」は、19 世紀英国教会司祭 S.J.ストーンが牧会教育上の必要から信仰告白「教会はキリストの体にして、恵みにより召されたる者の集い」に焦点を当てて作詞。曲は、C.ウェスレーの孫で 19 世紀英国教会のオルガニストとして活躍したサミュエル・S・ウェスレー(チャールズ・ウェスレーの孫)が「黄金の都エルサレム(Jerusalem the Golden / Urbs Sion aurea)」の歌詞に合わせて作曲したもの。21-101 番も同曲。

21-19「み栄え告げる歌は」**When in Our Music God is Glorified**

1. When in our music God is glorified, / and adoration leaves no room for pride, / it is as though the whole creation cried: / Alleluia!
2. How often, making music, we have found / a new dimension in the world of sound, / as worship moved us to a more profound / Alleluia!
3. So has the church, in liturgy and song, / in faith and love, through centuries of wrong, / borne witness to the truth in every tongue: / Alleluia!
4. And did not Jesus sing a psalm that night / when utmost evil strove against the light? / Then let us sing, for whom he won the fight: / Alleluia!
5. Let every instrument be tuned for praise! / Let all rejoice who have a voice to raise! / And may God give us faith to sing always: / Alleluia!

21-337「たたえよ、この日」**Hail The Day That Sees Him Rise**

1. Hail the day that sees him rise, Alleluia! / to his throne beyond the skies. Alleluia! / Christ, the Lamb for sinners given, Alleluia! / enters now the highest heaven. Alleluia!
2. There for him high triumph waits; Alleluia! / lift your heads, eternal gates. Alleluia! / He has conquered death and sin; Alleluia! / take the King of glory in. Alleluia!
3. Highest heaven its Lord receives; Alleluia! / yet he loves the earth he leaves. Alleluia! / Though returning to his throne, Alleluia! / still he calls us all his own. Alleluia!
4. Still for us he intercedes; Alleluia! / his atoning death he pleads, Alleluia! / near himself prepares our place, Alleluia! / he the firstfruits of our race. Alleluia!
5. There we shall with you remain, Alleluia! / partners of your endless reign, Alleluia! / see you with unclouded view, Alleluia! / find our heaven of heavens in you. Alleluia!

21-390「主は教会の基となり」**The Church's one foundation**

1. The Church's one foundation / Is Jesus Christ, her Lord; / She is his new creation / By water and the Word. / From heav'n He came and sought her / To be his holy bride; / With his own blood he bought her, / And for her life he died.
2. Elect from every nation, / Yet one o'er all the earth; / Her charter of salvation: / One Lord, one faith, one birth. / One holy name she blesses, / Partakes one holy food, / And to one hope she presses / With ev'ry grace endued.
3. Through toil and tribulation / And tumult of her war / She waits the consummation / Of peace forevermore / Till with the vision glorious / Her longing eyes are blest, / And the great Church victorious / Shall be the Church at rest.
4. Yet she on earth has union / With God, the Three in One, / And mystic sweet communion / With those whose rest is won. / O blessed heav'nly chorus! / Lord, save us be your grace / That we, like saints before us, / May see you face to face.